

当資料は、『甲賀市史第7巻』より抜粋しました。
『甲賀市史第7巻』は、絶賛発売中です。



販売価格: 1冊3,500円

お問い合わせ先

歴史文化財課 市史編さん室

所在地/〒520-3393甲賀市甲南町野田810番地 甲南庁舎3階

電話番号/0748-86-8075 FAX/0748-86-8216

E-mail/ koka30109000@city.koka.lg.jp

大河原氏城は、土山町鮎河のうち西野集落背後の標高四〇四メートル、比高約八〇メートルの山上に位置する。『甲賀郡志』によれば、長享年間（二四八七～八九）に大河原源太により築造されて代々居住したとする。

曲輪Ⅰ（主郭）は、東西約四〇メートル、南北約三五メートルの方形で、東側を除く三方に土塁をめぐらせ、北西隅を一段高くして櫓台状とする。北に虎口aがあり、石垣の跡が見られることから、虎口部分は石垣で固めていたと思われる。南側bは虎口状に見えるが、主郭に祀られた小社の参拝道として通された破壊道である。土塁にも多数の石が散乱しており、一部石垣が使われていたと思われる。石材はかなり大きなものが見られる。



図165 大河原氏城跡位置図

曲輪Ⅰの南には横堀をめぐらせ、そこからのびる二本の尾根にそれぞれ曲輪を配置する。西の尾根の曲輪は更に一本堀切cを入れた



写184 南からみる大河原氏城跡

上で曲輪を配置するが、東の尾根は階段状に曲輪が連なる。

曲輪Ⅰの東に比較的大きな曲輪Ⅱがあり、そこより北東にのびる尾根には階段状に曲輪が並んでいる。北の尾根続きには土塁から堀底までは約一五メートルにもなる大きな堀切dを入れている。その北に細長い曲輪の北端に高さ約四メートルの大きな土塁eを設けている。土塁の西には小さな土塁で囲まれた虎口fがある。

このように大河原氏城は、基本的には北東や南の尾根に見られるような階段状に曲輪が並ぶ構造の城であったが、その後、主郭部分を中心として横堀や石垣・土塁・虎口を付加するなど改修がなされたようである。したがって、現在見られる遺構は織豊期に改修を受けたものと推定される。

大河原氏城は、石垣や横堀が使われている点など、同じ鮎河のうちにあつて、本城の南に位置する黒川氏城と構造に類似点が見られ、その関連が注目される。

（石川）

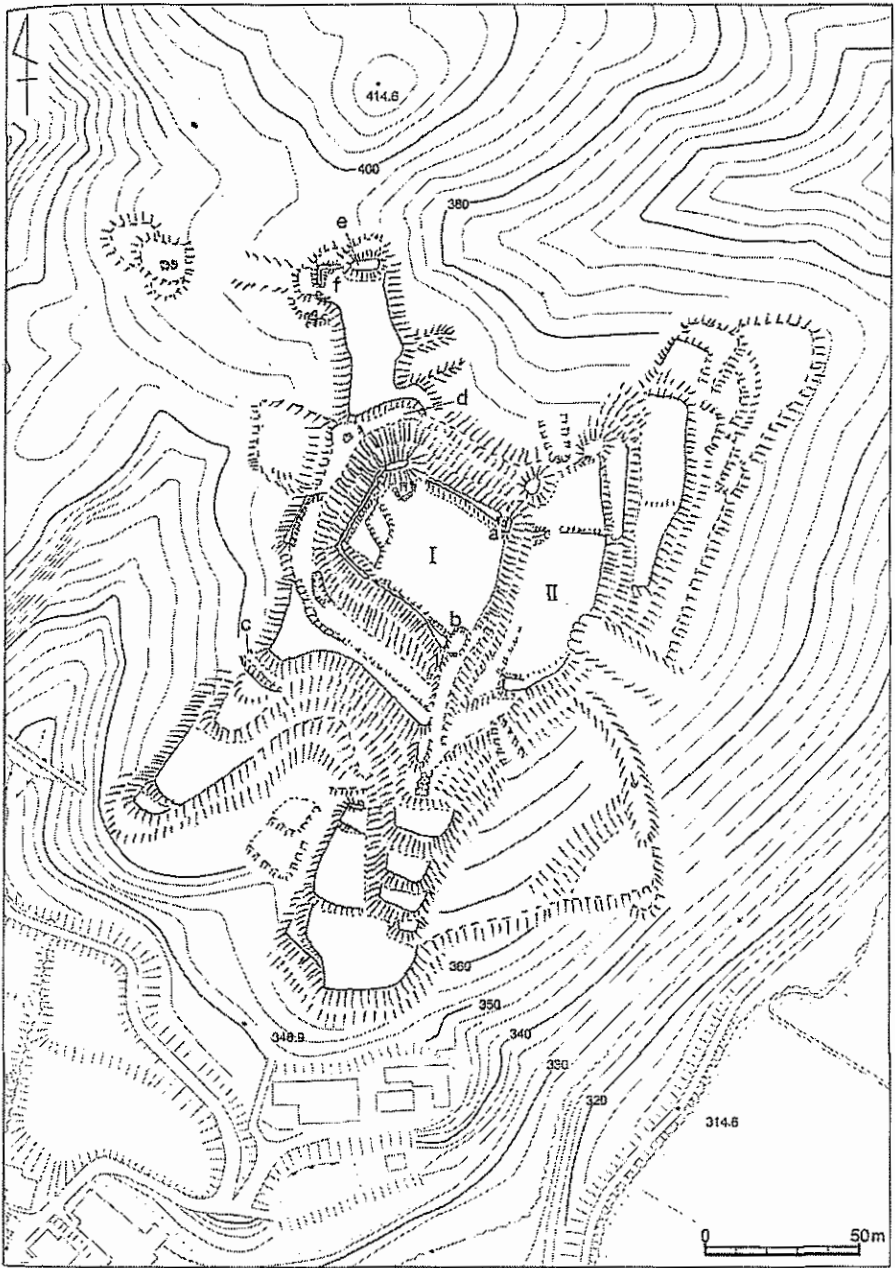


図166 大河原氏城跡概要図

(石川浩治作図)